

高校生の高齢者介護・福祉分野イメージ及び社会貢献意識と進路選択の関係性の研究
—高校生へのインタビューを中心に—

○ 東京家政学院大学 氏名 朝倉 和子 (006215)

西口 守 (東京家政学院大学・003468)

〔キーワード〕 高校生、介護イメージ、進路選択

1. 研究目的

現在の日本社会における介護人材不足の要因の一つに高齢者介護・福祉分野のイメージの悪化が挙げられる。一方で介護職は社会貢献度が高いと認識されているのも事実である。本研究では、次世代を担う高校生に対し高齢者介護・福祉分野へのイメージと社会貢献に対する意識についてインタビューを中心とした質的調査を実施し、身近に介護職を持つ層と持たない層の違いに着目しながら高校生が抱く高齢者介護・福祉のイメージ像と彼らの社会貢献意識と進路選択要因の関係性を明らかにし、次世代の人材育成について考察することを目的とした。

本研究では中学生へのアンケート調査（量的調査）も同時に実施しているが、今回は特に高校生の進路選択における実態と選択要因についての考察を中心とした。

2. 研究の視点および方法

A 県内、県立高等学校に協力を依頼し平成 28 年 1 月、高校生へのインタビューを実施した。場所は生徒の所属高等学校内教室である。調査対象者は家族に介護職関係者を持つ生徒 3 名と持たない生徒 2 名の合計 5 名（全員高校 3 年生）である。授業時間の関係から 3 名（介護者無 2 名、有 1 名）、2 名（介護者有）のグループにて実施した。インタビュー形式は、インタビューガイドを使用した半構造インタビューであり、インタビュー時間は共に約 60 分であった。インタビューガイドの設問を中心に高校生に自由に語ってもらった。インタビュー内容は録音し逐語録として記録化した。インタビューガイドは、①介護の仕事をしたい、してもよいか、②介護職に関連するイメージについて、③自分の進路について（希望進路・相談者）、④社会や人の役に立ちたいか（社会貢献意識）、⑤社会や人に役立つ職業のイメージについての 5 項目を中心とし、身内に介護職がいる生徒、いない生徒での違いや共通点等、重要と思われるキーワードを中心に探索し、カテゴリー化を行った。

また、参考までに中学生へのアンケート調査は、平成 27 年 12 月、中学 1～3 年生の計 100 名にアンケートを実施（有効回答数 98）しており、分析は χ^2 検定を用い介護職の家族の有無と①介護職に就きたいか②介護職は大変そう③親が反対する④介護はやりがいがある⑤社会貢献意識等の各設問との関係性に注目をした。

3. 倫理的配慮

中学生・高校生に対する調査共に実施校校長に依頼をし、校長、教員による調査内容の確認と調整を行った。調査の意図について生徒に文書及び口頭にて説明をし、個人が特定できないよう無記名で調査の実施と管理をしている。

4. 研究結果

高校生へのインタビュー調査の分析の結果、高校生が抱えている介護職のイメージ、進路決定の過程や決定要因、社会貢献意識、介護職の家族の有無の影響を示すカテゴリーを7つ生成することができた。そのカテゴリーは①介護の業務内容に対する不安、②介護職の実態・介護対象者の実像の不認知と情報不足からくるマイナスイメージ、③介護職は自分には無理だという思いと介護職への適性や資質の重要視、④介護職に対する能動的評価、⑤介護職の現状、高齢者（高齢社会）への理解、⑥進路決定の要素（興味と継続性）と社会貢献意識の関係性、⑦介護職の家族の影響と家族の様子を見ての進路決断（介護職有のみの意見）であった。

中高生や大学生を対象にした介護職への就労意識については身内に介護従事者が存在すると介護職就労への関心が高くなることが挙げられている（藤沢 2012、吉村 2009）。本調査においても介護従事者を家族に持つ層の方が介護職就労への関心が高い傾向にあったが、介護職の家族の存在が介護職や介護に関連する能動的なイメージ形成に大きく影響しているとは言い切れない結果が多く見られた。介護職の有無に関係なく進路決定の要因は“長く続けられる仕事”であり、介護人材不足の解決策を考える時、介護従事者が家族にいるという特殊性を持つ層にばかり頼るのではなく、普遍的な対策を講じる必要がある。

介護職へのイメージで最も顕著であったのが「介護職は大変そう」というものであった。介護従事者のいる生徒は家族の働き方を見て介護職とは異なる進路を選択していた。介護従事者である家族から介護職を反対されたケースもあり、現職の介護従事者が自身の職業に自信が持てる環境づくりも重要である。インタビューにおいて高校生は社会の役に立ちたいと答えており、介護従事者の有無に関係無く、介護職は“やりがいのある仕事”“社会の役に立つ仕事”と評価されていた。しかし、介護職に対するこれらの評価は中高生の実際の職業選択に結びついていない現状が伺えた。

5. 考察

高校生にとって進路選択の重要な要素は“長く続けられる仕事（継続性）、自分の興味がある仕事（共感）”である。この継続性と共感を有する職業として介護職は認識されていない。介護職に対する業務内容イメージの固定化も見られ、業務範囲の限界を感じさせていることから介護職は継続性や共感のある職業として認知されづらい。介護職には利用者の生活をトータルに支援する存在として介護業務以外の価値をつけていく必要がある。